

大会競技規則

少年の部(幼年・小学生・中学生)

1. 競技方法

- ・ 3本勝負(2本先取した者の勝ち)とする。
- ・ 1本先取後、試合時間終了の時、1本先取者の優勢勝ちとする。
- ・ 判定により勝敗を決する場合は、次に示す順番により判定する。

①警告の有無 ②試合内容「優勢・劣勢」 ③技能

(1) 試合方法 予選リーグ・決勝トーナメント戦方式

- ・ 取得本数が同数の場合は引き分けとする。

リーグ戦の順位は以下の順位で判断する。

- ①勝ち数が多いもの ②負け数が少ないもの ③取得本数が多いもの
- ④取られた本数が少ないもの

以上が同数の場合は再試合を1分間の1本勝負の延長戦を行う。

さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

再試合がリーグ戦になる場合は、1分間の3本勝負とし、⑤警告の有無を順位の判断材料に加える。

(予選リーグは、それでも勝敗が決しない時、じゃんけんによって勝敗を決する。)

・ 決勝トーナメント戦は、試合時間内に勝敗が決しない時、1分間1本勝負の延長戦を行う。さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

(2) 試合方法 トーナメント戦方式

・ 試合時間内に勝敗が決しない時、1分間1本勝負の延長戦を行う。さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

2. 試合時間

- ・ 試合時間は、1分間30秒とする。

ただし、予選リーグ戦の試合時間は、1分間とする。

3. 小学4年生以上は「少年ソフト面」を着装する。顔面への攻撃は全て「空撃」で当たらない。男子中学3年生のみ「一般面」を着装し、面への直接打撃を必要とする。

全学年共、顔面への蹴り技は横蹴りのみとする。

4. 小学4年生以上は、股当てをすること。

5. 「少年ソフト面」の脱落放らんについては、警告対象としない。

6. 使用できる「少年ソフト面」は、「日本拳法競技連盟」が販売する公認の面、又は大会実行委員会が認めた面とする。

7. 負傷及び再発防止のためのサポーター・テーピングの使用を認める。

ただし、肘や膝へのサポーターは綿のついていないものとする。

8. 試合場で呼び出してもいない選手は失格とする。

9. 選手参加費未納者、ゼッケン未着者は失格とする。

10. その他は、日本拳法競技連盟競技規則に則って行う。

大会競技規則

高校生、壮年、一般の部

1. 競技方法

- ・ 3本勝負(2本先取した者の勝ち)とする。
- ・ 1本先取後、試合時間終了の時、1本先取者の優勢勝ちとする。
- ・ 判定により勝敗を決する場合は、次に示す順番により判定する。
 - ①警告の有無 ②試合内容「優勢・劣勢」 ③技能

(1) 試合方法 トーナメント戦方式

- ・ 試合時間内に勝敗が決しない時、1分間1本勝負の延長戦を行う。
- さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。
- ・ 三位決定戦、決勝戦は、試合時間内に勝敗が決しない時、3分間の1本勝負の延長戦により勝敗を決する。
- さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

(2) 試合方法 リーグ戦方式

- ・ 取得本数が同数の場合は引き分けとする。
- リーグ戦の順位は以下の順位で判断する。
- ①勝ち数が多いもの ②負け数が少ないもの ③取得本数が多いもの
 - ④取られた本数が少ないもの
- 以上が同数の場合は再試合を1分間の1本勝負の延長戦を行う。
- さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。
- 再試合がリーグ戦になる場合は、2分間の3本勝負とし、⑤警告の有無を判断材料に加える。

2. 試合時間

- ・ 試合時間は2分間とする。
- ただし、一般男子(有段)の試合時間は3分間とする。

3. 日本拳法競技連盟認定の製品の「表足プロテクター」の任意着装を認める。

「表足プロテクター」の脱落放らんについては、防具脱落の警告対象となる。

4. 負傷及び再発防止のためのサポーター・テーピングの使用を認める。

ただし、肘や膝へのサポーターは綿のついていないものとする。

5. 試合場で呼び出してもいない選手は失格とする。

6. 選手参加費未納者、ゼッケン未着者は失格とする。

7. その他は、日本拳法競技連盟競技規則に則って行う。